

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	42	学 校 名	静岡県立静岡中央高等学校 通信制の課程	校 長 名	田中 剛
------	----	-------	------------------------	-------	------

1 スクール・ミッション

県内唯一の公立通信制の課程を有する学校として、生徒が学習活動に主体的に取り組むための多様な支援をとおして、社会をつくる豊かな人間性・思考力・創造力を身に付けた、自立した人財の育成を目指す。
--

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
このような力を育てます (1) 主体的に考え判断し、他者と協働し行動する力 (2) 自分のよさや可能性を認識し、社会の中で表現できる力 (3) 多様な価値観や互いの人権を尊重し合い、命と心を大切にする力 (4) 学ぶ楽しさ、わかる喜びを知り、努力し学び続ける力	このような教育活動を行います (1) 基礎学力の定着と多様なニーズに応える柔軟なカリキュラム (2) 「自学自習」を尊重し、生徒個々に合わせた丁寧な添削指導 (3) ICTを有効活用したわかりやすい学習指導 (4) 互いを尊重し合い、主体性や協調性を育む特別活動	このような生徒を求めています (1) 「高校を卒業したい」という強く明確な意志を持つ生徒 (2) 自ら計画し、自ら学び、自ら行動することができる生徒 (3) マナーを大切にし、ルールを守ることができる生徒 (4) 他者を認め、尊重することができる生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

(G＝グラデュエーションP、C＝カリキュラムP、A＝アドミッションP)

ア 学ぶ喜びを実感できる学習システム、教育課程の構築 (G1・4)(C1・2)

イ 有徳の人を目指し、社会の中で生徒が自己実現できるための指導と支援の実施
(G1・2・3)(C4)

ウ ICT、放送教育の活用、リモート等の新しい通信制での学びについての検討 (C3)

エ 広報活動の促進 (A1・2・3・4)

オ 教職員の資質向上、コンプライアンスの遵守及び働き方改革の具現
(G1・2・3・4)(C2・3・4)(A3・4)

3 本年度の取組 (重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当部署
ア	生徒の変化に 対する 対応の 在り方 の 検 討	・添削指導及び面接指導を生徒の実態に合わせて改善する ・生徒が理解しやすい教科指導に取り組む ・3観点に基づいた学習評価を検証し、改善を継続する ・生徒の実態に合わせた学校設定科目を検討する ・学習システムの検討を行い通信教育実施計画により公開する	・単位修得率 50% ・新入生(一般生)の1科目以上単位修得率 60% ・必修教科目の修得率 50% ・生徒アンケート「レポートの添削指導は丁寧に行われている」90%以上 ・生徒アンケート「スクーリングは学習を進める上で役に立つ」90%以上 ・3キャンパス合同教科会議を年間3回程度実施 ・教育課程検討委員会を年間3回以上開催 ・新しい RST の運用について検討を継続	全教職員 教務・研修課 各教科

様式第 1 号

	生徒の学習環境の向上	- 多様な生徒に対応した学習環境の在り方を検討する - 生徒が一年を通じて学習を継続し、単位修得に至るための指導・支援方法を研究する	- 始業スクーリング及び特別活動での指示により、Classroom への参加数を増やす 「スクーリング通信」のデジタル配信 - ICT を活用した学習支援を拡充 - ユニバーサルデザインの視点に基づく報告課題・補助プリント・掲示物等の改善を継続 - 学習支援日を計画的且つ効果的に実施 - 外部機関との連携による学習支援を試行	教務・研修課 生徒・総務課 情報・広報課 進路課 各教科
	生徒の学力向上に向けた指導方法の改善	添削指導や面接指導の様子等から生徒の学力や困り感を的確につかみ、指導の検証と改善を行う	- 教員アンケート「生徒の実態に基づき、面接指導の改善に取り組んだ」100% - 教員アンケート「生徒の実態に基づき、添削課題の改善に取り組んだ」80% - 生徒アンケート「レポートやスクーリングの内容がよく理解できた」70%	全教職員
イ	すべての生徒支援を実施	- 特別な支援を必要とする生徒等の指導方法を充実させる - 教員間における生徒情報の共有を促進し、有効な支援につなげる	- 必要な生徒の個別の指導計画を作成 - 中学校訪問(春)を実施し、新入学生徒の情報を収集 - ICT を活用した情報共有及び職員会議時の情報共有を拡充 「生徒保健カルテ」の活用の推進 - ケース会議(生徒支援委員会)を適切に開催 - SC や SSW 等の専門スタッフの有効活用及び外部機関との連携の推進	特別支援 Co. 生徒支援委員会 生徒・総務課
	社会の中での自 己の実現する ための支援の充 実	「自立活動」の充実に向けた支援体制の整備 - 行事への主体的な参加 - 生徒会活動の充実 - 進路面談や外部機関との連携による進路実現	- 生徒個々の目標達成や単位修得のために指導・支援の方法を研究 - 教員が連携し、生徒の情報共有を充実 - 生徒アンケート「行事に積極的に参加した」40%以上 - 就職支援員やジョブサポートティーチャーの活用 - 外部機関との連携による就労支援・進学支援	自立活動実施委員会 生徒・総務課 進路課
ウ	ICT を活用した学習指導の活用促進	- Classroom の活用促進 - Chromebook を活用した生徒学習支援の研究および、その他学習支援ツールの研究	- 生徒アンケート「Classroom を活用した」50% - 教員アンケート「学習支援(スクーリングやレポート)に Classroom を活用した」60%	教務・研修課 生徒・総務課 情報・広報課 進路課
	成績処理システムの円滑な運用	分掌間連携による成績処理システムへの入力	運用に関するマニュアルの随時更新	
	ICT を活用した校務効率化	- 一斉メールによる情報発信 - Classroom の活用 - 生成 AI や採点システム等 ICT ツールの活用方法の研究	- 生徒登録率 85% (新入生) - 教員アンケート「学習支援以外(生徒連絡・進路指導・調査等)に Classroom を活用した」80%	
エ	広報活動の促進	「中央高通信」やホームページ等を活用した情報を積極的に発信する - 広報資料の更新 - 通信制への理解を深めるため、入学説明会、中学校訪問(秋)を実施する - 外部の学校説明会に積極的に参加する	「中央高通信」を年間 4 回発行 - ホームページの定期的な更新 - 学校案内等の更新とデジタル配信を試行 - 各キャンパスにおいて、外部機関等と連携した合同相談会に年間 1 回以上参加 - 各キャンパスにおいて、中学校訪問(秋)及び中学校への広報資料の配信を計画的に実施 - 各キャンパスにおいて、入学説明会を年間 3 回実施	生徒・総務課 情報・広報課 各キャンパス 入試検討委員会

様式第 1 号

オ	教職員の資質の向上	・各自のキャリアステージを意識した研修の充実 ・校内外の研修を通して教職員の資質・能力等を向上させる ・キャンパスの実情に合わせた研修を実施する ・人権教育を意識し、グローバルデザインに基づく教科指導や特別活動を行う	・全教職員が計画的に研修を実施 ・全教職員による校内研修を3回以上実施 ・教職員が受けた研修を他の教職員に伝達する機会を5回以上設定 ・チーム研修の参加対象者を拡大 ・人権教育全体計画に基づいて年間指導計画を作成し人権意識の涵養を推進	教務・研修課 全教職員
	コンプライアンス遵守	・コンプライアンス遵守に向けた日常的な声掛け ・誤送事故防止の具体定方策の徹底	・交通事故・違反ゼロを達成 ・発送時の複数チェックにより誤送事故ゼロを達成	全教職員
	業務の精選と効率化	・業務内容を見える化し、業務見直しや精選を行う ・ICTを活用した業務の効率化を進める	・各分掌で業務の整理分担を実施 ・教員アンケート「ICT(Classroom や Chromebook 等)を活用したことで業務改善が進んだ」50% ・ICT 活用が「できる」「ややできる」と答える教員 90%以上	全教職員
	生徒の安心安全確保のための防災意識の向上と対策の充実	・キャンパスの実情に合わせた実践的な防災・安全指導を実践する	・他校、他課程や、地域との連携を推進 ・各教科、特別活動において防災教育を実施 ・出校記録管理の徹底	生徒・総務課 各教科